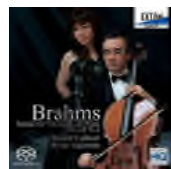


研究分野のキーワード：楽曲イメージ奏法、ピアノ演奏論、楽曲分析、音楽表現、室内楽

研究紹介

私は、ピアノ演奏で「音楽を奏でる」ことによって、「自分を表現できる喜びを持つこと」「自分のイメージした世界を音楽で表現できる喜びに浸れること」「その喜びを人に音楽で伝えること」を目標に演奏活動をしています。

モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、リスト、ラフマニノフ、ブラームス、などのソロ、協奏曲、室内楽などの作品の演奏会を行い、CD11枚をオクタヴィアレコード等から出版しています。詳細は <http://www.takemotokyoko.com/> をご覧ください。



ほか

私自身、演奏活動を通じて、いろいろな音楽にふれ、様々な音楽表現の音色のテクニックのタッチを研究しています。学生の思い描いたイメージを的確に表現できる演奏法を指導し「音楽の素晴らしさや面白さ」を追究し、自己表現達成の喜びと努力する方法を学んでいただきたいと思います。

そこで、音楽の中に秘められたイメージを理解して描き、そのイメージを適切に表現する手段を探し、表現する喜びに至る前の苦しさをどのように克服していけばいいのかを、限られたレッスン時間の中で、それを伝え、心でも頭でも理解し、それを奏法として確立するために、私は「楽曲イメージ奏法」を開発しました。

これは、音楽作品を分析し、音楽を言葉・色・絵・物語等で「演奏イメージプロット」（演奏表現設計図）を作り、それに基づき「具体的なタッチ」や「奏法」を用いて作品を表現するための「演奏表現メソッド」です。

自分が演奏する作品を、自分が思い浮かべたイメージから、物語を作成したり、楽譜にイメージした色を塗ったりして、自分が表現したい楽曲のイメージの理解を深めて、自分の「演奏イメージプロット」を考え、作成することで、目的を持った練習ができるようになります。楽曲分析の方法を理解し、演奏法を体験し、たのしく音楽を習得しましょう。